

わたしたちの手でしあわせをひとつに 第67集

デフアスリートの思い (インタビュー)



やかべ あやか
矢ヶ部 紋可さん

かぶしがいしゃ
(株式会社ゼンリンデータコム)

だい かい か き だい 24 回 夏 季 デ フ リ ン ピ ッ ク バ ド ミ ン ト ン 混 合 団 体 戦 銀 メ ダ ル、 じ ゃ し 女 子 ダ ブ ル ス ベ ス ト 4

バドミントンを 始めたきっかけ

小学校1年生のときに、きこえない人のバドミントンクラブができて、参加したことがきっかけです。ろう(生まれた時から、または幼児期からきこえない人。主に手話を使用する人が多い)の先輩でデフリンピックに出場する方がいて、いつか自分もデフリンピックに出場したいと意識するようになりまし

環境の変化

今年(2024年)就職して、県外で生活しています。大学生のときは、練習時間の確保、体力面、指導者が少ないこの3つが課題でした。

今は15時までの勤務なので練習時間の確保ができています。勤務後、すこし休んで夕方からの練習に向かうことができるので、気持ちにゆとりができました。また、コーチに指導してもらえることで自分の技術の向上につながっています。今の環境はとても充実しています。

日本代表になって 変わったこと

高校2年生から日本代表に選ばれるようになりました。日本代表になってすぐにアジア大会があり出場しましたが、そのとき全試合負けてしまったんです。それが今まで一番悔しかった出来事です。しっかりがんばりたい、リベンジしたいと思ったその経験が、意識が変わったときだと思っています。

海外へ行って感じた 日本とのちがい

前回のデフリンピック(ブラジル大会)に出場したとき、ブラジルの方たちは、障がいがあることをプラスにとらえているように見えました。堂々とされていて障がいがあるように見えません。日本では、自分たちは障がいがあるからと、すこし遠慮がちになる場面が多い気がします。

デフバドミントンの 情報保障について

審判には手話通訳が横について通訳しています。また、ジェスチャーで審判が伝えてくれることもあります。手話ができる審判の方も半数くらいいます。試合のときは補聴器をはずして行うというルールがあり、練習の時から補聴器をはずしてプレーしています。

反応がすこし遅れるので、ダブルスの時はペアの人とよくコミュニケーションをとるように気を付けています。また、視野を広げてよく見るようにしていて、視野を広げるためのビジョントレーニングを行っています。きこえない人はよく目を使うので視野を広げることは大事です。

お互いを知ろうとする 気持ちを大切に

いま、手話を使う人が増えてきているなど感じています。先日デフバドミントンの大会があったときに、審判の方はきこえる方でしたが、手話を使ってくださいました。また、飲食店に行った時も、お店

の方が手話で「ありがとう」と言ってくれました。相手が歩み寄ってくれるということがうれしいです。

これからデフリンピックに向けて、もっと手話が広まって、障がいのありなしにかかわらずお互いが積極的にコミュニケーションをとろうとする気持ちを持てるようになるといいなと思います。

よ 読んでいる方へ

関東に引越して、新しく知り合った方たちと話すときに、出身はどこ?と聞かれて「太宰府です」と答えると、「知ってる!」「いいところだよね!」とたくさん言われます。太宰府市出身であることを誇りに思って、これからも練習に励んで、みなさんに良い結果を報告できるようにしたいと思っています。

おまけ

太宰府のことで食べ物の話題も盛り上がりです。太宰府の食べ物で有名なのは梅ヶ枝餅や梅の美ひじきですね。あと、福岡の食べ物では時々うまかつちゃんを食べたくなります。関東では販売していないので、実家から送ってもらっています。

